

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

.理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり

.サービスの成果に関する項目

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議の上記入すること。

各自己評価項目について、「取組みの事実」を記入し、取組みたいに を付け、適宜その内容を記入すること。

「取組みの事実」は必ず記入すること。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。

(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。

チーム = 一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。

関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

事業所名

グループホーム・アショカ

(ユニット名)

月輪

記入者(管理者)

氏名

橋本 和幸

評価完了日

平成 19 年 7 月 20 日

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(自己評価)		
			スタッフ全員で話し合い、独自の理念を作っている。また、見直しも行っており、昨年理念を変更している。		これからも、適宜理念の見直しをしていく。
			(外部評価)		
			事業所では、地域との交流を通して「一人ひとりの思いをくみとって」「豊かな生活」「人としての関わり」という理念を実践できるよう取り組んでおられる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	(自己評価)		
			職員採用時には、理念について説明し、理解してもらっている。目に留まるところに表示し、理念に基づいて目標を決め、日々のケアに生かしている。		行動指針がさらにケアに生かせるように、ミーティング等で徹底を図る。
			(外部評価)		
			管理者・職員ともに理念に沿って利用者の笑顔が見られるようになっておられ、利用者一人ひとりが何を望んでおられるのか探りながら取り組んでおられる。		
3		家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	(自己評価)		
			家族会、運営推進会議での説明を行っている。フロアーに理念を掲示している。入居時にご家族に理念について説明している。		地域の集まり等の機会に理念についての説明を行う。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい					
4		隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	(自己評価) 近隣の方たちとの日常的な挨拶を心がけている。気軽に立ち寄ってもらうほどの付き合いにはなっていない。		運営推進会議のメンバーの協力も得て、地域に開かれたグループホームにしていく。
5	3	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	(自己評価) 夏の花火大会には近所の子どもさんを招待し一緒にたのしんでいる (外部評価) 事業所の行事ごとに地域の方を招待されている。災害訓練等にも参加いただいた。		事業所では、さらに地域との関係作りを深めるためには、継続した取り組みが必要だと考えておられ、今後も事業所独自の取り組みが期待される。
6		事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議で地域の方たちに伝えてはいるが、地域住民への啓蒙活動が実施できていない。		地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会を行っていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	(自己評価) 全員で自己評価に取り組んでいる。外部評価結果は職員全員で共有し、改善点を見つけ出し、取り組んでいる。 (外部評価) 前回の評価結果について改善計画を作成し取り組まれた。近隣の方々に災害時の協力をいただけるよう個別訪問をされ、事業所の見学等をしていただいた。自己評価はすべての職員で話し合い作成された。		自己評価に取り組む際、事業所自身で気付かれたことが改善への最大の起点でもあり、今後も評価の仕組みを活かしたさらなる取り組みで、事業所の質の向上を目指していかれることが期待される。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	5	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価)		
			毎回評価の取組み状況について、報告・話し合いを行っているわけではない。		タイムリーに評価への取り組み状況について報告・意見交換していきたい。
			(外部評価)		
			会議時、利用者の近況や事業所での催しごと等について報告をされている。地域の集まりで災害時の協力について話していただけることとなった。		
9	6	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	(自己評価)		
			特に実施していない。		
			(外部評価)		
			運営推進会議時に市の担当者に出席いただいている。		今後、成年後見制度の活用を計画されている。今後も市との関わりを通して事業所の取り組みを、さらに知っていただけるような取り組みが期待される。
10		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	(自己評価)		
			今までは、個々の学習にまかせていたが、成年後見制度を利用する入居者がおられるので、職員に学習の機会を持ちたい。		
11		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	(自己評価)		
			ミーティング時に勉強会を持ち、防止に努めている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
12		契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時・解約時には十分な説明を行い、納得していただくよう努めている。		
13		運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議に出席された入居者の方にも意見をいただいている。日頃から職員に何でも話せる関係作りに努めている。		
14	7	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	(自己評価) 家族さんが面会時に近況報告している。また、事業所での写真を回覧している。体調不良時などの場合は随時、報告している。		
			(外部評価) 写真をたくさん載せたホーム便りやホームページで利用者の暮らしぶりや表情等を伝えておられる。ご家族の来訪時、個別記録を見ていただき、日頃の会話や様子を伝えておられる。		
15	8	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 日頃からご家族が話しやすい人間関係作りに努めている。家族会では、職員が席をはずし、家族同士で話し合ってもらう時間を取り、意見・苦情を出していただいている。		
			(外部評価) 日頃からご家族の要望を聞き取るよう心がけておられ、ご家族が意見や要望が出しやすいよう、ご家族だけで話し合うような時間も設けておられる。		さらに、今後、ご家族の声を引き出せるよう、ご家族で運営するような会の開催等も検討されていた。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
16		運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 運営者・管理者は職員の要望や意見をきくように心がけているが、不満や苦情は言いがたい部分も多いので、把握しきれていない可能性もある。		新人職員採用時、適性かどうか現場スタッフの意見を聴いている。更に職員が意見を言いやすい雰囲気作りに努めたい。
17		柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	(自己評価) 夜間入浴するときは、遅出の時間を配慮したり、調理時間帯は多忙のため、人員増している。		体調不良の方がいる場合やターミナル期でのスタッフの調整をしていく
18	9	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	(自己評価) 職員の異動は、馴染みの関係を考慮し、止むを得ず必要なときのみとしている。 (外部評価) 職員が変わる場合は、利用者のダメージを防げるよう利用者の状態も踏まえながら、伝え方等も配慮をされている。		
5. 人材の育成と支援					
19	10	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修については、新人研修などを計画している。外部の研修にも積極的に参加し、GH内での勉強会も実施している。職場内研修も段階に応じて行っている。 (外部評価) 外部研修の受講を推進されており、受講後には報告会を行って周知を図っておられる。系列施設の職員と合同勉強会も開催されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
20	11	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価) 相互評価に毎年参加している。愛媛県グループホーム協議会主催の研修を通じて、同業者との交流を持っている。		
			(外部評価) 相互評価や研修の機会を活かし、ネットワーク作りをされている。		
21		職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	(自己評価) 職員と積極的にかかわりを持ち、悩みやストレスを把握するように努めている。時には職場を離れて気分転換する機会を持っている。		少人数の職員の間人間関係に更に配慮したい。
22		向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	(自己評価) 運営者は度々グループホームにきて職員と接しており、職員のモチベーションを高めるように努めている。		運営者と職員との面談の機会を設け、心の距離をより近げたい。
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>					
23		初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) 相談から入居までにフェイスシートを基に本人の想いをできるだけ把握しているが、場合によってはあわただしい入居となってしまう場合がある。		入居までにご本人がホームに訪ねてこられたり、職員がご自宅に訪問する機会を複数回持つてるようにしたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
24		初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	(自己評価) ご家族の想いを表出しやすい良い関係作りに努めている。		
25		初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 努めている。		
26	12	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	(自己評価) 入居までにグループホームをご本人が訪ねてこられる機会を多く持つことが望ましいが、現実には1～2回である。 (外部評価) 利用予定者やご家族には、入居前に、できる限り会ってお話をされており、事業所の様子を見ていただくよう働きかけておられる。		馴染みながらのサービス利用が望ましいが、ご家族協力も必要である。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
27	13	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	(自己評価) GHでの生活でケアが最優先にならないよう、一緒に暮らしている雰囲気作りをしている。また、お互いの信頼関係の中で楽しんだり、怒ったりと感情豊かにすごしている。 (外部評価) 職員は、利用者にランチョンマットの縫い方を教えてもらったり、職員の用事等を察して、利用者が食事の支度等、率先して行ってくれるようなこともある。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 面会時には職員の方から話しかけ、何でも話せる雰囲気作りをしている。		
29		本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	(自己評価) 電話や手紙を利用し、本人が出せないような方は職員が入居者の写真を添えて送っている。		
30		馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	(自己評価)		バックグラウンドや本人との会話の中で職員が把握し、実現に向けられるようにする。
31		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	(自己評価) 職員が入居者同士の関係を見極め、入居者の行動や心の動きを常に見つめるように気を付けることで、関係性が保て、お互いが支え合えるように努めている。		
32		関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	(自己評価) 退居後にこちらから連絡を取ることがなかった。		サービス利用後もご本人や家族の安否を気遣い関係を大切にしていく。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
33	14	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価)		
			ケアプランを「私の想い」とし、職員全員が入居者の思いをくみ取ろうと努力している。		把握には努めているが充分とはいえない。更なる努力をしていく。
			(外部評価)		
			利用者の思いや意向を汲み取ることを日頃から心がけ、意思表示がむつかしいような利用者からも「何を望んでいるのか」を探りながら個々の把握に努められる。		
34		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価)		
			アセスメントシートを独自で作成し、家族さんと協力して記入することで、バックグラウンドの把握につとめている。		
35		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	(自己評価)		
			職員が日々、「何ができるのか?」「どうすればできるのか?」を考え、記録の残し、その人の状態を把握出来るように努め、ケアにつなげている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
36	15	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	(自己評価)		
			1ヶ月に1回、カンファレンスを行い、気がついたこと、アイデアなど職員全体で話し合っている。		家族さんの意見が出やすいような関係作りを、これからも行っていく。また、入居者も事前に意見を聞けるようにしていく。
			(外部評価)		
			利用者、ご家族のご意見や希望を聞き、すべての職員で話し合っ、介護計画を作成しておられる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	16	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	(自己評価)		
			定期的に見直しを行っているが、状態が変化した場合のプラン変更・見直しをしていく必要があるが、できていないことがある。		状況の変化に応じて見直しをし、関係者との話し合いを持っていく。
			(外部評価)		
			介護計画は、3か月ごとに見直しをされている。		
38		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)		
			個別記録にケアプランや気づき、工夫などを記入し、職員全員で情報の共有が出来ている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
39	17	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	(自己評価)		
			当ホームでは、デイサービスやショートステイの多機能の支援を取り入れていない。		
			(外部評価)		
			系列デイサービス施設の利用や眼科等かかりつけ医の受診の送迎、買い物や訪問マッサージの利用等、個別の希望に応じて支援されている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
40		地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	(自己評価) 週1回ボランティア(ピアノ)の方に来ていただいている。運営推進会議で民生委員さんからの意見の提案をお願いしている。		
41		他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	(自己評価) ご本人・ご家族の希望により、訪問マッサージやデイサービスの利用をしている。		
42		地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	(自己評価) 地域包括支援センターの職員の出席を頂いているが、協働はできていない。		連携を取り、協働していけるように努力していく。
43	18	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) 母体が病院なので、定期的な診察、緊急時の往診を受けられ、状態の変化時医師との連携をとっている。訪問診療の受け入れも行っている。 (外部評価) 協力医療機関での定期的な受診以外に眼科等、利用者個別のかかりつけ医の受診を支援しておられる。		
44		認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	(自己評価) 基本的に職員が相談しているが、入居者自身から訴えがあった場合は入居者が直接医師と相談している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
45		看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	(自己評価) 職員の中に看護師がいるので、日々の健康管理を相談しながら行っている。		
46		早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	(自己評価) アセスメントシートを作成し、入院時には医療機関へコピーして渡し、GH内でのケアの情報を提供している。		
47	19	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	(自己評価) 状態の変化があれば、その都度ご家族・医師・スタッフが話し合い、方向性を決定している。		家族の思い、職員の思い、GHでのケアの限界、GHの方向性などこれからはもっと多くの話し合いが、家族、医師、職員間で行えるようにする。
			(外部評価) 終末期の対応についての体制・指針を定め、ご本人の状態に応じ、その都度かわる人たちと話し合い、共有してすすめておられる。		
48		重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	(自己評価) 左記のように努力している。		今後の状況の変化に備え、職員の充実、夜間の対応など、今後検討していかなければならない。
49		住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	(自己評価) 十分な情報交換ができていない。入居前の話し合いなど今まで以上に必要だと思われる。		入居でのリロケーションダメージを防ぐ為に職員、家族などが連携し、なじみの家具の持ち込み、情報の交換を行いたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>					
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>					
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
50	20	<p>プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居者1人1人のプライバシーを大切に、個別的な対応や支援をしている。</p>		
<p>(外部評価)</p>			<p>職員は、利用者に対し穏やかな声かけや対応をされていた。ホームページやホーム便りの写真掲載については、ご本人・ご家族の了解を取っておられる。</p>		
51		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日々の生活の中で選択出来る場面作りを心がけ、本人の思いをくみ取った支援をしている。</p>		
52	21	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>集団生活の中で、全体の流れを考えてしまう事もあるが、入居者個々の想いを職員全員がくみ取ろうとしている。</p>		<p>意見を伝えにくい人などにも、左記と同じように支援していく。</p>
<p>(外部評価)</p>			<p>出来る限り利用者のペースを大切にされておられるが、人員体制等、制限もあり、やむを得ず職員の都合にて誘導してしまう場合もある。</p>		<p>むつかしいこともあるだろうが、さらに職員で話し合いを重ね、チームワークで利用者一人ひとりの個性のあるその人らしい生活を支援していかれることが期待される。</p>

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
53		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	(自己評価) 月に1度、訪問理容にて対応している。以前は希望があり、昔から行っていた美容院に行っていたが、現在は入居者自身の状況の変化により、行っていない。		希望があれば行きたい。
54	22	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 入居者1人1人の力を見極め、楽しみが持てるような声かけ、一緒に作ったと思えるような声かけ、または触発を行っている。 (外部評価) 調査訪問時、利用者と職員と一緒に会話をしながら食事の支度、片付けをされていた。食事時にはテレビを消して、食事や会話を楽しめるよう取り組まれていた。		やらされていると思うことがないよう、職員と一緒に行う。
55		本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	(自己評価) 日々の生活の中で喜ばれた物、好きな物を把握し入居者が望まれる物を用意している。		意見を伝えにくい人などにも、左記と同じように支援していく。
56		気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	(自己評価) 出来るだけ排泄での失敗感をなくすために、排泄リズムを把握し、さりげない声かけ、誘導にて対応している。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組の事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57	23	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	(自己評価)		
			毎日入浴したい人などへも、どうすれば入浴できるか考え支援している。また、1人で入浴したい人は、転倒の危険性はあるものの、家族さんに同意を得て、マットを敷き1人で入浴してもらっている。		
			(外部評価)		
			夜間入浴を希望される方がおられ、寝る前に入浴される方もおられる。一人ひとりの希望に沿うよう心がけておられる。又、利用者の希望で足浴もされている。		
58		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	(自己評価)		
			夜間不眠だった方は、朝ゆっくり休んでもらったり、昼寝の時間を考えたり、何故不眠だったのか職員全員で話し合ったり、気持ちよく休んでもらえる環境作りをしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
59	24	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	(自己評価)		
			家族さんに協力してもらい、バックグラウンドを把握し、楽しみがもてるように支援している。		入居者1人1人に合った役割、楽しみ事をふやしていく。
			(外部評価)		
			折り紙等を使った手作業を楽しみながら行ったり、食事の準備片付け等の役割を持っていただくよう支援されている。無理強いせず、雰囲気作り等にも配慮しながら取り組んでおられる。		
60		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価)		
			元々、持っていなかったため、能力に応じての話し合いは行っていなかった。		ほとんどの方がもっていません、今後検討していきたい。

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
61	25	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	(自己評価)		
			本人の希望に添って外出したり、どうすれば外出の機会が増やせるのか職員間で相談し、実施している。		
			(外部評価)		
			喫茶店や買い物、病院の受診等に出かけておられる。		さらに、ご本人の意向をくみ取りながら介護度重度の利用者についても、外気に触れて楽しむような機会作り等が期待される。
62		普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	(自己評価)		
			本人の希望はあるが、車酔いや家族さんの協力も必要のため、現在は行えていない。		希望に添えるよう支援していきたい。
63		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価)		
			家族から何かおくりものがあれば職員から連絡し、入居者にかわったり、遠方の家族さんへは定期的に写真なども送っている。		
64		家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	(自己評価)		
			訪問時にはお茶など出し心地よい雰囲気作りをし、次回も訪問しやすい環境作りをしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
65		身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 何が身体拘束なのか、どこまで拘束になるのか考え、拘束のないように支援している。		
66	26	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	(自己評価) 入居者が自由に庭などへ出られるように鍵をかけていないが、夜間は安全と職員の人数により一時的にかけるともある。 (外部評価) 日中、玄関に鍵をかけず対応をされていた。		基本的に鍵をかけない支援をしていくために、今後も職員間で話し合いを持っていく。
67		利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	(自己評価) 入居者が何処にいるのか？なにをしているのか？把握し、安全を確保している。		
68		注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	(自己評価) 1人1人の状況に合わせた対応をしている。		
69		事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	(自己評価) 緊急時マニュアルを作成している。また日々の生活で事故防止のために個別でセンサーを使用したり、食事時は職員が全体を見守れる位置にて食事している。もし事故があった場合は事故報告書を書き、同じ事がないように防止に取り組んでいる。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
70		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	(自己評価) 緊急時のマニュアルを作成しているが、事故が起こった時のとっさの判断ができるかは不安である。		定期的なマニュアルの回覧や勉強会、救急法の実施、看護師からの指導。
71	27	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	(自己評価) 年2回の防火、避難訓練を行っている。また、緊急時の連絡網を作っている。地域の方へも見学会を行い、GH内を知ってもらい、協力してもらえるようにしている。 (外部評価) 地域の方にも参加していただき、夜間時を想定した避難訓練を実施された。のれんやカーテン、じゅうたんは防火用に変更され、仏壇のローソク、線香は電池式にされた。		
72		リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	(自己評価) 事前の話し合いはないが、状況の変化があった場合は医師より家族への説明をしている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
73		体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	(自己評価) 健康管理表だけに頼ることなく、日々の体調の変化にも目を向け、異常のサインを見落とさないようにつとめている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
74		服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 全ての薬の目的、副作用、要領や用法について理解出来ていない事もあるが、服薬チェックファイルがあり、いつでもチェック出来るようにしている。		薬の変更があった場合の服薬チェックファイルの書き換えや看護師からの指導。
75		便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	(自己評価) 薬だけに頼る事なく、消化のいい物や乳製品などを心がけてとるようにし運動も1人1人に合わせて行っている。		
76		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	(自己評価) 毎食後口腔ケアを行っている。義歯の消毒もしている。		
77	28	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 水分量が少ない人や自分では飲めない人に対しては、水分チェック表を利用し、1日の水分量を確保出来るように努めている。 (外部評価) 個別記録とチェック表で食事や水分の摂取量を記録して、一人ひとりの摂取量を把握し支援されている。		
78		感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	(自己評価) 感染症マニュアルを作成し、実施している。感染症(C型肝炎など)がある場合、何の感染症があるのか職員だけが分かるように表示し、常に意識出来るようにしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
79		食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	(自己評価) 衛生管理マニュアルを作成し、見やすい場所へ貼り職員全員で実施している。また、各消毒薬を利用し、衛生が保たれるようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
80		安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	(自己評価) 玄関前に季節の花を植えたり、入りやすいように門をあけている。		
81	29	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 物品や装飾は馴染みの物を使用し、季節の花々も生けている。 (外部評価) 和室のコーナーには仏壇や掛け軸がかけられていた。マッサージ機が設置されており、利用者は、自由に使っておられた。		
82		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 和室、リビング、ソファ、テーブルと別々の空間作りをしているため、好きな所で過ごせる環境作りをしている。		

自己評価及び外部評価票

自己評価	外部評価	項目	取組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組みたい又は取組みを期待したい項目)	取組みたい又は取組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	30	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価)		
			自分の使い慣れた家具などを持ち込み、家のような空間を作れるように配慮しているが、全員ができていないといえない。		入居前での話し合いにて、馴染みの物をより多く取り入れたい。
			(外部評価)		
			使い慣れた筆筒や鏡台などの家具が持ち込まれ、利用者の塗り絵やご家族の写真等が飾られている。テレビや仏壇を持ち込んでいる利用者もおられる。		
84		換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	(自己評価)		
			GH内を快適な空間にするために換気に気を付け、温度調節も入居者の感じる快適温度に調節している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
85		身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価)		
			廊下には手すりをつけ、居室やトイレなどには入居者の目線でわかりやすい目印をつけている。		
86		わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	(自己評価)		
			混乱や失敗がないように、場所や高さなど調節してさりげない対応が来ている。		
87		建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	(自己評価)		
			庭にベンチや畑、花などがあり、また自由に出入りが出来るため、活動しやすい環境がある。		

. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (自己評価) ②利用者の2/3くらいの 3 利用者の1/3くらいの 4 ほとんど掴んでいない	思いや願いが伝えられる入居者以外の方にたいして不十分だと思う。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (自己評価) ①毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	基本的に寄り添う支援を心がけている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (自己評価) ①ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	特に決められた時間はないので、各入居者が自分のペースで過ごしている。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	生き生きした表情も見られるが、そうでない方もいる。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (自己評価) 1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない	どうしても職員の付き添いが必要なため、行きたい時に行きたい場所へは行けていない。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	自分の体について、高齢になる事への不安や自分の体が自由に動かなくなっていく事への不安はあると思う。
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (自己評価) ②利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	帰宅願望の訴えのある方もいるため、全員が安心して暮らせているとはいえない。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (自己評価) ②家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない	信頼関係は出来ていると思うが、家族さんから求めている事などは、なかなか聞けない。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (自己評価) 1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 ③たまに 4 ほとんどない	なかなか地域の方は訪ねてこない。

項目	取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	判断した具体的根拠
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元 の関係者とのつながりが広がったり深ま り、事業所の理解者や応援者が増えている (自己 評価) ② ① 大いに増えている ② 少しずつ増えている ③ あまり増えていない ④ 全くいない	今まで知らなかった地域の方と知り合う事ができ、地域との繋がりが出来た。
98	職員は、生き活きと働けている (自己 評価) ② ① ほぼ全ての職員が ② 職員の2/3くらいが ③ 職員の1/3くらいが ④ ほとんどいない	仕事の中で楽しみを見つけ、楽しみながら働けているが、そうでない職員もいる。
99	職員から見て、利用者はサービスにおお むね満足していると思う (自己 評価) ③ ① ほぼ全ての利用者が ② 利用者の2/3くらいが ③ 利用者の1/3くらいが ④ ほとんどいない	職員が今に満足する事なく支援していかなければならないため。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービ スにおおむね満足していると思う (自己 評価) ③ ① ほぼ全ての家族等が ② 家族等の2/3くらいが ③ 家族等の1/3くらいが ④ ほとんどできていない	職員が今に満足する事なく支援していかなければならないため。

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

(自己評価)

・夜間入浴体制をとり、今までの暮らしの流れを継続出来る。また、夜間入浴体制のため、日中外出しやすい。関わりを大切にし、わずかな時間でも寄り添う支援をしている。看護師がいるため、健康面での相談が密にでき、医師との連携もとりやすい。